

● 新指定答申文化財の概要

【種別】有形文化財 建造物

【名称】丈六寺の五輪塔^{じょうろくじ ごりんとう}

【員数】1基

【所在地】名張市赤目町丈六 529 番地

【年代】鎌倉時代後期

【概要】

丈六寺の五輪塔（じょうろくじのごりんとう）は丈六寺の境内にある高さ217.5cmの石造五輪塔です。県内にある中世に作られた石造五輪塔の中では伊勢市にある大五輪の五輪塔（県指定：340cm）、伊賀市にある阿弥陀寺の五輪塔（県指定：242cm）に次いで3番目に高いものです。

地輪に正応4（1291）年の紀年銘があり、三重県内にある紀年銘を持つ五輪塔の中では、津市賢明寺の石造板五輪塔（県指定）の弘安8（1285）年に次いで2番目に古いものになります。また、中世の大型五輪塔の中で表面に梵字を刻むものは、伊賀地域では唯一の事例になります。

丈六寺の五輪塔は中世の五輪塔の中で県内有数の大きさであること、紀年銘を持つ資料では県内最古級であること、鎌倉時代後期の石造建造物の様式・製作技法を現在に伝えていることなどから、学術的な価値の高い貴重な石造建造物です。

